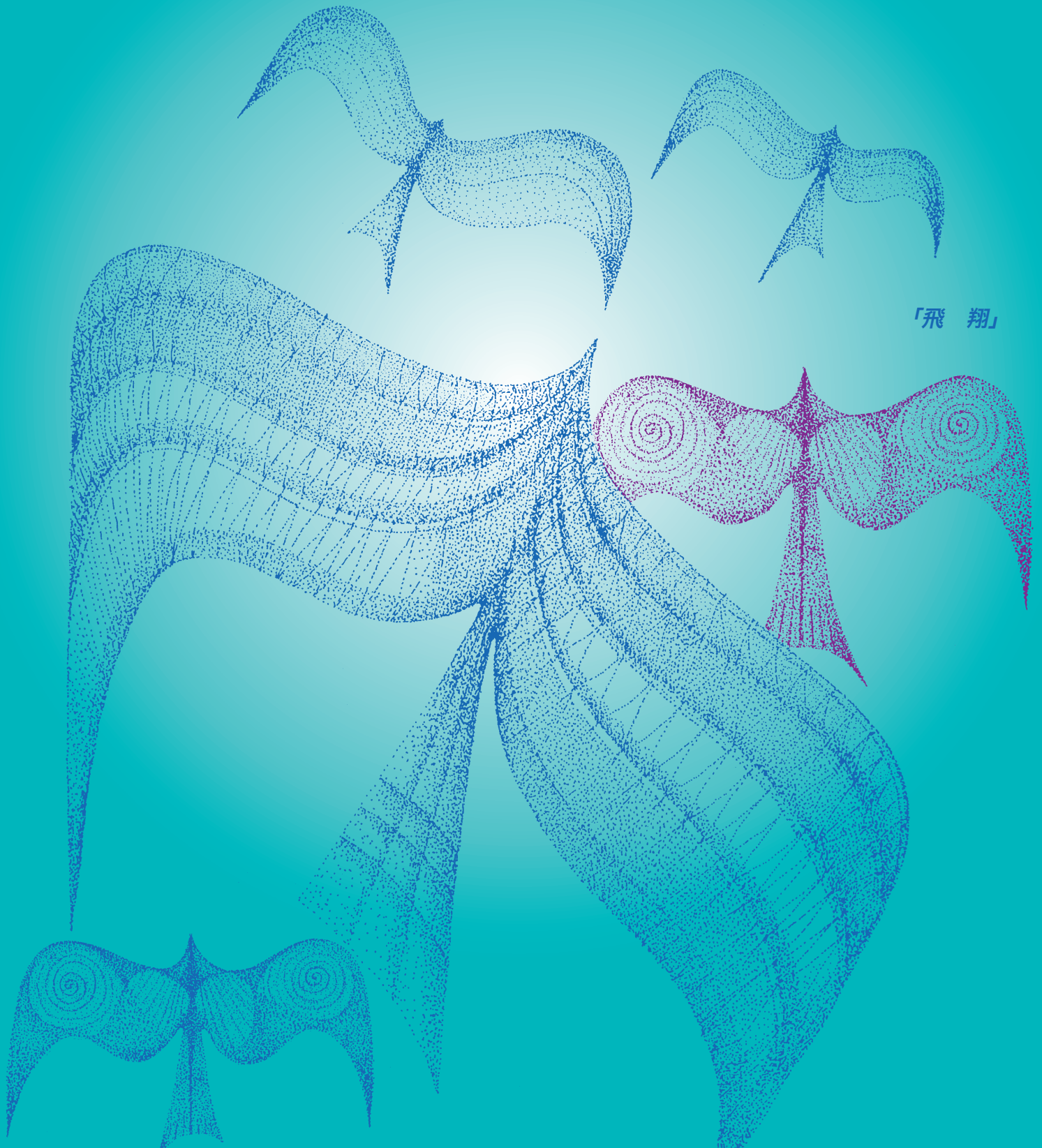


鹿大広報

No.146

Feb/1998

編集・発行
鹿児島大学
広報委員会



特集



山田 啓子

■卒業にあたって

私が初めて鹿児島に来て、もうすぐ6年がたとうとしています。入学式で火山灰の洗礼を受け、目が痛くて泣きながら帰ったことを昨日のことにように思い出します。

この6年を振り返ってみると、日常の忙しさに追われ、あっという間に通り過ぎてしまった感じがします。今思えば、やり残した事も多く、あせりと寂しさのようなものを感じます。大学に入学し、多くの人に出会いました。歯学部には、一度社会に出てから、または他大学を卒業後入学した人も多く、出身地も様々で、色々な考え方に接することができました。臨床実習が始まってからは、実際に患者さんとも接し、患者さんから学ぶ事も多くありました。

長い学生生活に終わりを告げます。しかし、卒業はゴールではなく、新たなスタートであることを忘れないようにしたいと思います。

最後に、お世話になった先生方に厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

(歯学部歯学科6年 山田 啓子)



三浦 芳裕

■チャレンジ精神

私は、口腔病理学講座の大学院生として研究や病理診断を中心に仕事をする傍ら、日本陸連の登記選手として、日本の代表選手を選手するような試合にも出場して、世界を相手に活躍するアスリートと同じスタートラインに立つことも経験しました。大学院では、教授をはじめ周りの優秀なスタッフに恵まれ、緊迫感みなぎる雰囲気の中で、知識や技術の習得に心がけました。私をとりまく環境が自分をひとまわり大きく育ててくれた気がするとともに、そのような環境にめぐりあえたことに幸運を感じずにはられません。己の自主性と人間関係の大切さを痛感しながら大学院の4年間があつという間に過ぎていきました。これからも初心を忘れず、何事にも挑戦する意欲を持ち続けたいと思います。

(歯学研究科4年 三浦 芳裕)



増田 智恵

■一期一会

大学4年生。私にとって小学校以来続いてきた学生生活の最終学年となります。最も思い出深く印象に残る1年となりました。

SPI模擬試験から始まり就職活動を経て原子力発電所見学、ゼミ旅行等々、枚挙に暇はありません。これら数多くの出来事を通じて一番の宝となったのが様々な人々との出会いです。ほんのわずかの言葉しか交わさなかった人もいれば人生について夜が更けるまで語り合った人もいますが、勉学に関すること、社会に関すること、人生に関すること、そして遊びに関することなど多くのことを学びました。何となく大学に入学した私が自分の進むべき道を見い出すことができたのも、これら多くの『出会い』の賜物と感じています。

社会に出ればこの1年以上に多くの出会いがあるに違いありません。一瞬の出会いであっても人生の糧となるよう、これからも出会いを大切に生きて行きたいと思っています。

(工学部情報工学科4年 増田 智恵)



萩田 忠弘

■研究室での3年間を振り返って

私は学部の4年生から修士の2年生の3年間、応用化学工学科の幡手研究室に所属しました。研究室では、先生方の温かい？御指導の下、日々研究に取り組んできました。その成果として、化学工学会の主催する学会に4回参加し、発表することが出来ました。その中でも、平成9年11月に韓国で開催されたシンポジウムでは、英語で発表し、大変緊張したのを覚えています。学会で発表することなど入学当時では考えられませんでした。実際に発表した自分の姿を振り返ると、成長した気がします。また、貴重な経験をしたと思います。こうした経験が出来たのは、先生方、研究室の仲間そして周囲の方々のお陰です。皆様の御協力があったから今の自分の姿があるのだと感じています。

これから社会人となりますが、学生生活で学んだことを活かして、また、鹿児島大学の卒業生としての誇りを持って頑張っていけます。

(工学研究科2年 萩田 忠弘)

特集



小 片 丘 彦

■さよなら桜ヶ丘

昭和55年以来歯学部在籍し、解剖学と自然人類学を専攻してきました。着任当時の桜ヶ丘は、まだ住宅も小学校も建っていない広々とした眺めでした。歯学部へ曲がる角の現在貯水タンクのある辺りは、見事な花をつける桜の広場で、満開の頃は昼の弁当を広げる人たちの姿が見られたものです。今、桜ヶ丘の台地はびっしりと家が建ち並び、小学校もスーパーストアもあるひとつの地域社会に成長しました。

私は今、退官を前に桜ヶ丘での18年を振り返っています。講義をし、実習を指導し、人類学調査で国外へも出かけ、古人骨の発掘もやってきました。結構いろいろやったじゃないかと自惚れてもみます。けれど、好きなことを勝手にやってただけだという思いがあります。これから面白くなるのにと残念でもあります。もし、もう一度この人生を繰り返すことができれば、今度はうまくやれるのに。ありがとう歯学部の皆さん。さよなら桜ヶ丘。

(歯学部教授 小片 丘彦)



大 串 哲 弥

■夢を託して

私が鹿児島大学に着任した時には、超伝導研究には欠かせないヘリウム液化機がなかった。超伝導体は今のシリコンに代わりうる唯一の材料であり、又電気抵抗が完全に零という点から大電力用線材としても理想的なものである。そこで理学部の榎屋先生とともに液化機の設置に向けての仕事から始める事になり、やっと実現した。超伝導は1911年にオネスによって発見以来、現在まで約一世紀が経過している。しかしその実用化の糸口はなかなか見い出せなかった。21世紀まで後3年の年月を残す今日になって、どうにか工学の全分野で実用化の糸口がほどけ始めた感じがする。しかし本格的な実用化が開花するのは21世紀になってからであろう。そうしている内に私も定年を迎える事になってしまった。今は超伝導研究者が益々鹿大に育ってくれる事をお願いしたい。未だ前途多難だが、夢多きこの工学分野での先生方の御活躍を期待する。

(工学部教授 大串 哲弥)



上 村 浩

■くじら雲

昭和43年4月に着任した。ほどなく学園紛争の嵐が吹き荒れ、本部4階の大会議室で吊上げの虚しさを味わう。また、世を捨てた若者の棺に三度も付き添った。多くは、補導協委員在任中の悲しい巡り合わせだった。

一方、バス通勤で得た鮮烈な記憶がある。二昔前の初夏。土曜日の昼下がり。法文前バス停で、附属小の女の子3人がいつせいに飛び跳ねていた。「天まであがれ。1、2、3ッ」と。舗装のない地面に、開いた国語の教科書と赤いランドセルを投げ出して。土煙りが舞って、陽を浴びた紙面と紺色の筒スカートを包み、そこに表題の4文字があった。

いつしか、コピー万能の世になったが、学ぶ喜びを学生と共有したい願望は保ってきた。出来映えは自己評価55点ほどか。でも、楽しく、恵まれた30年間であった。このキャンパスと皆さんに深謝している。次の世紀でも、ここに夢が育ち、感動が躍ることを願ってやまない。

(工学部助教授 上村 浩)



小山田 善次郎

■退官にあたって

建築家としての仕事を鹿児島大学の退官と共に終るにあたり、その過去を振り返ってみると、その最初は早稲田大学の卒業設計で四苦八苦していた頃を思い出します。

それは伊豆半島に建つ大規模病院付養老院でありましたが、その作業を通して、設計とは調査により現実の矛盾を明らかにし、理想像を構想し、実現可能なアイデアを提案することである、ということを発見しました。

その後、2つの建築事務所をへて鹿児島大学へ来ることが出来、設計指導及び事例の展示作品、採点等により私も多くのものを学びました。

そして、いろんな仕事に直面して、さきの手法できり抜けることが出来ました。

社会はどんどん変化し進歩してゆくと思いますが、これから卒業しようとする皆さんの参考となれば嬉しく思います。最後に、32年間永い年月にわたって、鹿児島大学の建築学科で多くの先生、職員、学生の熱心で温い方々に囲まれて過ごすことが出来て心より感謝します。

(工学部講師 小山田善次郎)

くろの ゆういち
黒野 祐一 (医学部教授耳鼻咽喉科学講座)
医学博士 (生) 昭和30年3月24日
(学) 鹿児島大学医学部
(前) 大分医科大学医学部助教授
(担) 頭頸部腫瘍、上気道感染症、
鼻アレルギー、粘膜免疫



常に国際的な視野と展望をもって臨床そして研究に励み、その面白さを一人でも多くの学生に理解してもらえるよう頑張ります。

たにくち まさこ
谷口 昌子 (歯学部助教授歯科基礎科学講座)
Doctor of Philosophy (Ph.D.)
(生) 昭和21年5月6日
(学) Graduate Theological UnionにおいてPh.D.取得
西洋、キリスト教、及び仏教倫理学
(前) アメリカで各種ヴォランティア活動(アメリカ市民を対象とした連続
講演レクチャー: 各種教育機関、大学、大学院インストラクター等)
(担) 歯科人間科学、歯科医療の倫理学、倫理英語、一般英語

25年間アメリカで(母親、Ph.D.、教育者、宗教倫理学者等として)学んできた経験が歯科医療を学ぶ鹿児島人の人間性開発の一助になるよう願っています。

まつなが やすみつ
松永 安光 (工学部教授建築学科)
MASTER OF ARCHITECTURE
(生) 昭和16年11月2日
(学) ハーヴァード大学大学院デザイン
学部(修士課程)修了
(前) 株式会社近代建築研究所 代表取締役
(担) 都市システム工学、都市計画、都
市設計、建築構法、建築設計製図



国内外において建築および都市設計の実務に30年以上にわたって携わってきた成果を生かしつつ、新たな可能性を教育を通じて見出したい。

ふるかわ よしやす
古川 純康 (工学部教授生体工学科)
薬学博士
薬剤師 (生) 昭和11年3月19日
(学) 東京大学薬学部薬学科卒業
(前) 医薬コンサルタント
(担) 工学英語Ⅰ、Ⅱ、生化学、生
物化学、生化学特論



新設の生体工学科が一日も早く一人立ち出来るよう、また21世紀に花開く新しい技術分野で活躍できる人材を送り出せるよう、微力をつくす所存です。

いわい すみお
岩井 純夫 (農学部教授生物生産学科)
農学博士 (生) 昭和23年10月13日
(学) 九州大学大学院農学研究科修
士課程
(前) 日本たばこ(株) 遺伝育種研究
所・副所長
(担) 園芸種苗生産学、蔬菜園芸学特論



企業ではできなかった、じっくりと腰をおつけた研究をしたいですね。また、自分の頭で考えることのできる学生を育てたいですね。

こう たくこう
侯 徳興 (農学部助教授生物資源化学科)
博士(農学) (生) 昭和34年6月7日
(学) 鹿児島大学大学院連合農学研
究科博士課程
(前) 理化学研究所共同研究員
(担) 動物細胞工学、生物化学Ⅱ、
動物生化学特論



留学させて頂いた大学でまた教育・研究できることを心から喜んでいます。新たな気持ちで職務を遂行するとともに国際交流にも微力ながら尽力したいと思います。

とくなが まさよし
徳永 正義 (医学部講師公衆衛生学講座)
医学博士 (生) 昭和22年3月19日
(学) 昭和大学医学部
(前) 鹿児島市立病院病理研究検査
室部長
(担) がんの疫学



原爆被爆者における癌発生及びEBウイルスとヒトの癌発生について研究したいと思っています。

かじわら かずみ
梶原 和美 (歯学部講師歯科基礎科学講座)
教育学修士 (生) 昭和37年2月25日
(学) 九州大学大学院教育学研究科
博士後期課程
(前) 宮崎医科大学医学部助手
(担) 歯科人間科学(分担)、歯科
医療心理学、〈私〉のための
心理学、対人関係を考える



歯学の領域での心理学研究の可能性を探索しているところです。学生との出会いも楽しみにしています。

なかやま しげる
中山 茂 (工学部教授情報工学科)
工学博士 (生) 昭和23年7月22日
(学) 京都大学大学院工学研究科(博
士課程)電子工学専攻修了
(前) 兵庫教育大学助教授
(担) 「マルチメディア」「バーチャル・リアリティ」
「信号処理工学」「応用数学Ⅰ」「電磁気学Ⅰ」



Webメディア情報工学という新しい研究領域を目指して研鑽を重ねて努力したいと考えています。

たかはし ゆきとし
橋 行俊 (工学部教授情報工学科)
工学博士 (生) 昭和16年5月22日
(学) 早稲田大学大学院理工学研究科
(修士課程)電気工学専攻修了
(前) 国際電信電話株式会社研究所主幹研究員
(担) 光情報通信工学特論、信頼性工学、
情報電子回路工学、電気磁気学Ⅱ



年々めざましく発展する情報通信分野の生の技術を学生に伝え、彼らの知的好奇心を刺激していきたいと考えています。

つだ かつお
津田 勝男 (農学部助教授生物生産学科)
農学博士 (生) 昭和32年8月31日
(学) 九州大学大学院農学研究科博
士後期課程
(前) 福岡県農業総合試験場専門研究員
(担) 昆虫学、生物的防除論、植物
病害虫学概論、昆虫学特論Ⅱ



専門にこだわることなく、農業の奥深さを学生と共に学んでいきたいと思っています。